

はじめに

コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys) は、情報処理学会システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会が主催するシンポジウムです。1987年に第1回が開催されて以来、コンピュータシステムに関する最新の研究成果が集まる場として重要な役割を果たしてきました。本シンポジウムのスコープは、オペレーティング・システムやミドルウェア、仮想化技術、ファイルシステム、組込みシステム、ユビキタスシステム、実時間システム、ディペンダブルシステム、モバイルコンピューティング、Peer-to-Peer技術、セキュアコンピューティング、インターネット基盤技術、並列分散システム、クラウド技術など、システムソフトウェア全般の多岐にわたる内容を含んでいます。

今年の「第33回コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys 2021)」は、コロナ渦のため昨年に引き続きオンラインで開催されます。発表募集に際しては、ComSys 2020までは投稿者の目的に応じた選択ができるように4つの投稿カテゴリを提供していましたが、ComSys 2021ではカテゴリ間の違いや〆切日の違いによる混乱等を防ぐために、一般発表の3つの投稿カテゴリと〆切日を一本化しました。その代わり発表申し込みの際に、論文の有無とコメントフィードバックの有無を選択できるようにすることで、実質的なカテゴリ分けは維持しつつ窓口を統一してシンプルにしました。コメントフィードバックは査読ではなく、ComSysでの発表後に研究内容を発展させることを目的とした前向きなコメントやアドバイスを提供するものであり、通常の研究発表会にはない貴重な機会を提供しています。また、従来通り、ポスター・デモ発表も実施します。

ComSys 2021では12件の発表申し込みがあり、そのうち9件は論文がある発表でした。論文投稿者はいずれもコメントフィードバック有りを希望しており、コメントフィードバックには高い需要があることがうかがえます。セッション構成としては、スケジューリング、データ、セキュリティ、信頼性といった最近の動向を反映した内容となっており、シンポジウム当日の活発な議論が期待されます。招待講演は、「FPGA開発日記」の著者であるmsyksphinz様による「次世代を担うオープン命令セットアーキテクチャRISC-Vの最新動向」と、IBM Corporationの大平怜様による「パブリッククラウドにおけるネットワーク品質の向上:パケット落ちの実態とその原因調査の実例」の2件となっており、産業界の動向も反映した興味深い内容となっています。また、システム分野のトップカンファレンス・ジャーナルに採択された論文を紹介する凱旋招待講演も引き続き実施します。他にも若手招待講演や研究プロジェクト紹介などのイベントを企画しており、コンピュータシステムに興味がある方々にとって非常に魅力がある内容になっていると思います。

OSやシステムソフトウェア分野の発展は、新たなアプリケーションを産み出し、新しいハードウェアプラットフォームを活かしていくという意味で、大きな社会的使命を担っております。そのためにも、本シンポジウムから次世代のシステムソフトウェアを生み出せればと考えております。また、システムソフトウェアの研究開発、産学連携、人材発掘と育成、人的交流などを今後も推進していければと考えております。本研究会およびシンポジウムがさらに発展するよう、今後とも皆様のご支援・ご協力を賜れば幸いです。

2021年12月
第33回コンピュータシステム・シンポジウム 実行委員長
品川 高廣 (東京大学)
第33回コンピュータシステム・シンポジウム 副実行委員長
田所 秀和 (キオクシア)